

働く女性1万人白書

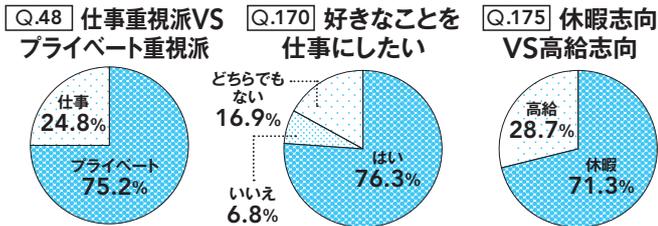
10,000 Working Women's Report

「好きなこと、やりたいこと」「今」の心地よさを優先する時代へ “偏食志向”が増殖する

小学館女性メディアのポータルサイト“しごとなでしこ”と独自の調査機関である“しごとなでしこ総研”は、合同で日本の働く女性を対象に大規模なアンケートを行いました。全206問からなる質問は、ファッション、仕事、恋愛・結婚、住まいなど、女性に拘わる幅広い内容で、20代～60代までの10,600人以上の方がご協力くださいました。その結果、今を生きる女性達の傾向などを読み解くことができました。この「働く女性1万人白書」ではそのデータを元に10のキーワードに分けて、今とこれからのを見ていきます。

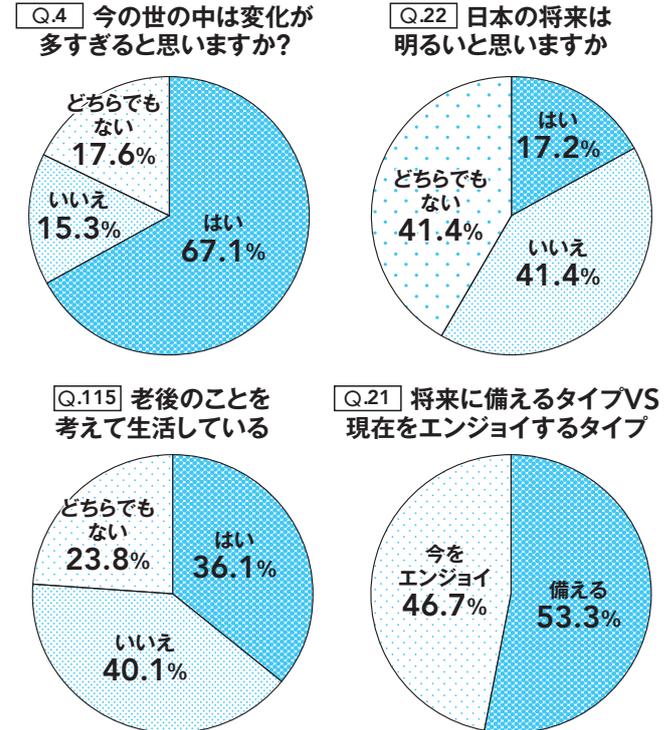
※なお、全206問のアンケートの答えは、しごとなでしこ総研のHP内から無料で閲覧することができます。

01 プライベート重視主義



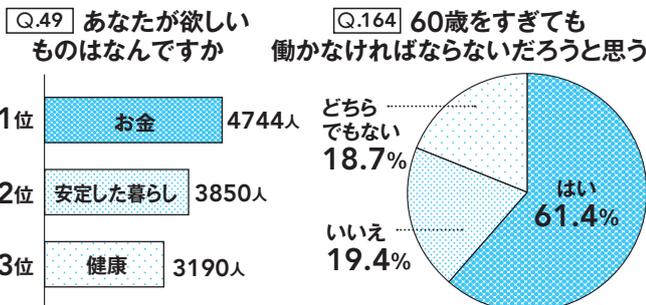
考察 仕事よりも余暇時間を重視と、7割強が回答。仕事の内容も、自身の好みや興味関心を満たしてくれる、「好きなこと」であればベターである。

03 将来への不安



考察 時代のめまぐるしい変化と経済状況が相まって、自分の暮らしに対して漠然とした不安感が抱いている人が多い。将来に備える人がいる一方で、将来の見通しがきかないのだから、今を十分に楽しもうとする傾向が強い。

02 経済的な不安



考察 経済的に満たされていないと感じている人が多く、60歳の定年後も収入を得続けなければならないと予測している。

分かったことまとめ

一生楽しいことが続いたらいいな…

メディアで個人が情報発信したり情報収集したりすることが容易になった。以前は、マスコミなど一部の人が享受していた情報を、手軽に入手できるようになった今、個人の興味に赴くまま知見を広げることができる。情報が開かれたことで、個人の趣味趣向は多様化し、各々のペースで日々の楽しみを見つけて選択できる時代が到来した。開かれたメディア環境に暮らしている一方で、将来への不安は消すことができない。就職難、年金問題、待機児童問題、震災など、予測のできないことが断続的に起こる。そのような状況下で、先行きの見えない将来を憂うより、とにかく今感じられる幸福や楽しさを大切にしようとする人が増えているのではないだろうか。「好きな場所で」「好きな時に」「好きなものを」選択する。周囲にはなるべく

自分の好きなものを集めたい。栄養バランスを考えられた“幕の内弁当”ではなく、気軽に食べられて美味しい“ラーメン”や“丼モノ”が喜ばれる時代。
働き方にもその志向は顕れる。“大手”と言われる会社もいつまで安泰かはわからない。“高給”と言われる職業も、いつ社会的制度が変化するかわからない。身心ともに無理をして社会的な地位を得るといふことへの魅力は失われ、ある程度安定した収入と休暇が見込めて、興味のある内容を満たした仕事を見つけたいと願うことは当然のことだろう。
“偏食志向”とは決して揶揄した表現ではない。この変化が多い時代において、ある意味素直で合理的な発想が生まれるのは自然なこと。「新人の子は自分の頃のように働かない、好きなことしかしない」。一度でもそのようなことを思ったことがある人は、働き方への意識も多様化し、変化しているのだということを心に留めて欲しい(自戒の念も込めて)。

【これから予測される現象】

- 内婚婚の増加** 地元の幼なじみ、サークルの仲間、会社の新卒同期など、身近なコミュニティ内での結婚。リアルなコミュニケーションは居心地の良い場所のみでOK!?
- マルチノマドなキャリアアップ** 特定のキャリアの道筋を持たず、自由に暮らしの環境や場所を移動しながら転職するのが一般的に。自身の興味があること、条件が理想に見合う方向へ気軽に舵をきる。